第９６回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成 25 年 10 月７日提出）

平成 25 年度ＦＤ・ＳＤサマーワークショップ
①　新人教員のための授業創造入門

【趣　旨】　初めて授業を担当される方、また授業方法を再考してみたい方を対象に、この講座では授業創造の基礎的事項を概観します。授業設計から始め、授業方法の様々、学習評価や授業評価の方法、授業記録等について、各局面での留意点を整理します。事前に、参加予定者の方から授業づくりに関する疑問や関心等をお聞きして、それらを焦点にした意見交換を交えながら進める予定です。

【対　象】　全教職員（おもに新任教員の方が対象）

【日　時】　平成２５年８月 30 日（火）　10:00～12:00

【場　所】　文教キャンパス 教育学部 41 番教室

【講　師】　山地 弘起 教授（大学教育機能開発センター）

【内　容】
①　授業の設計（全学共有学士像、カリキュラム内の位置づけ、シラバスの書き方、NU-Web、TA）
②　授業の方法（教授法、教材、予復習課題）
③　学習の評価（教育評価の基礎、成績評価、学習者アンケート）
④　授業の評価（授業日誌、公開授業、学生による授業評価）
⑤　授業の記録（授業実施記録、ティーチング・ポートフォリオ、成績資料の保存）

【到達目標】
①　授業創造のプロセスを概説できる
②　担当授業の改善に向けて、具体的な工夫を考え出すことができる

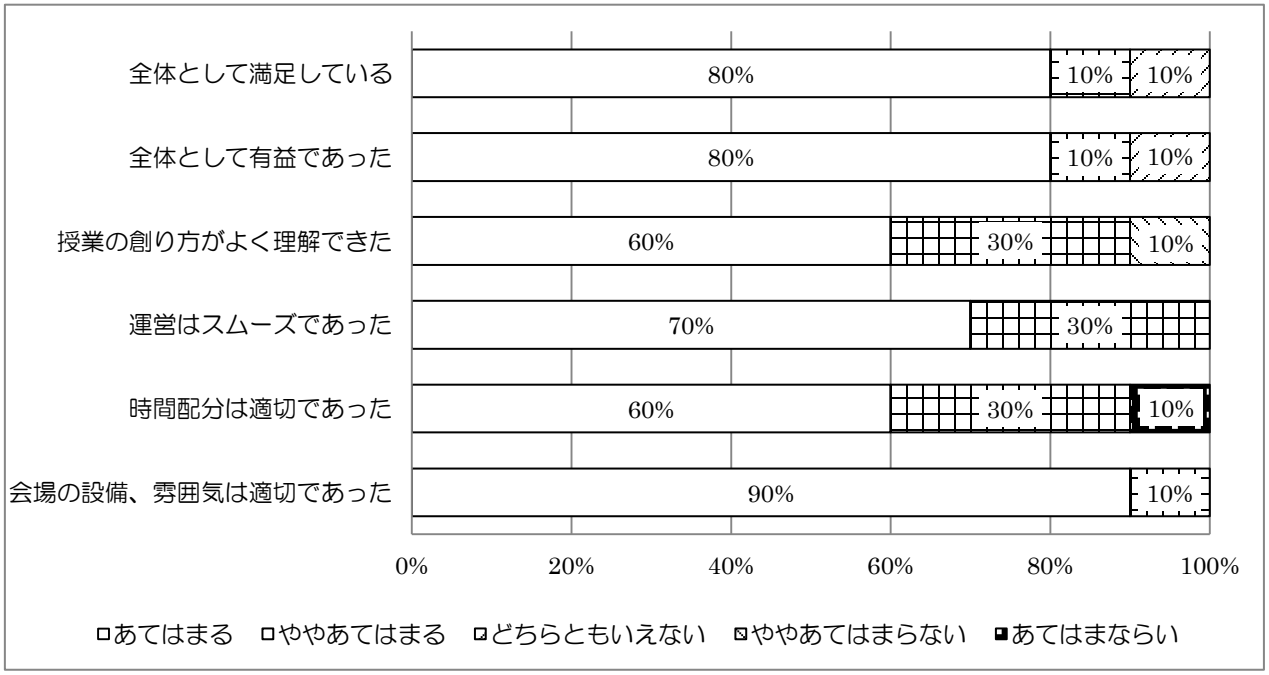
【主　催】　教務委員会

【企画・実施】　評価・FD 教育改善専門部会

【参加者】
１０名（受講証発行対象者：１０名）

所　　属	人　　数
教育学部	1
経済学部	1
医歯薬学総合研究科（医系）	2
医歯薬学総合研究科（保系）	3
工学研究科	1
国際健康開発研究科	1
産学官連携戦略本部	1
計	10

【参加者からの評価】（回答者：１０名）



○　今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

- 他の教員と意見交換ができてよかった。
- 山地先生のプレゼン自体が参考になりました。理路整然。
- 他の領域の先生方のお話をきくことが出来たのが、自己の授業を振り返る、又は、工夫を考える上で参考になった。
- 授業を実施した経験がなく、漠然とした不安を感じていましたが、創造のプロセスを一通り説明していただき、恐れることなく自信をもって授業作りをしたいと思いました。

今回、ホワイトボード、グループワーク、クリッカーを実際に体験できたことも、自分の授業作りの参考にできそうだと思いました。

- 色々な授業の手法を学ぶことが出来て良かったです。ホワイトボードを用いたり、クリッカーを用いたり、参考になりました。ただ道具を用意することが出来ないと使用できないので。

○ 内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたら、ご記入下さい。

- 少し寒かった。
- コーヒーありがとうございました。
- コーヒーを飲むタイミングを逃してしまったのが残念です。
- 時間厳守で終了して欲しい。

○ 今後、ＦＤ・ＳＤのテーマや実践方法などに関して何かご希望がありましたら、ご記入下さい。

- 各分野（学部ではなく）に特化した授業のやり方等があればいいですね。
- 参加型授業の具体的な内容、作り方について。

【総　括】

プレゼンテーションの印刷資料に加えて、教材として「長崎大学におけるアクティブラーニング事例　第１集」が配布された。グループに分かれた参加者に対して、教材を活用し、討論し、また短い時間で課題への回答を書き出すことが求められた。参加者からの評価は、全ての評価項目について 90～100%が満足、有益等との回答であり、本講座の目標である①授業創造のプロセスの概説、②担当授業の改善に向けた具体的な工夫を考え出すことは達成されたものと考えられる。アクティブラーニングの手法が取り入れられた本講座は、学生を対象とする授業の設計においても参照すべき事項を多く含んでいた。また、主として新任教員を対象とする講座であったが、授業経験を持つ教員にも有益な内容であったと考えられる。定員は 30 名で計画されていたが、参加者は 10 名であり、新任教員の数に対して少数であることが残念であった。次回の同様の企画においては、広報の推進と参加者募集への各部局の支援が望まれる。

（文責：植木 弘信）

第９６回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成 25 年１０月７日提出）

平成 25 年度ＦＤ・ＳＤサマーワークショップ
②　コミュニケーション・スキルアップ－わかりやすい話し方のコツ－

【趣　旨】授業や研究発表、会議等の場面では、話す内容のみならず、相手に伝えるための「話し方」が重要なポイントとなります。あの人の話は聞きやすい、わかりやすい、と言われるためには何が必要なのでしょうか？この講座では、アナウンサーと同様の訓練を交えながら、伝わる声，伝わる話し方をするためのコツについてトレーニングを行います。日本語の音声技術を，発声・発音などの基礎から学び，聞き手と向き合うことのできる話し方を考えてみましょう。

【対　象】　全教職員

【日　時】　平成２５年８月 30 日（金）　14:00～17:00

【場　所】　文教キャンパス　教育学部 41 番教室

【講　師】　小田切 めぐみ氏（東京農工大学・非常勤講師）

【内　容】
①　届く声を出すための練習・・・
　日本語をわかりやすく音声表現するためのトレーニング
　（呼吸法・発声法／発音・滑舌練習／アクセント・イントネーション・ポーズ）
②　伝わる話し方の練習・・・
　言葉の力でわかりやすく伝えるためのトレーニング
　（歯切れよく，メリハリをつけて読む／見たものを明確に伝える／聞いたことを簡潔に伝える／方法や状況を正確に伝える）

【到達目標】
①　スピーチに求められる適切な発音・発声法の基本について説明することができる
②　自分の話し方・伝え方のクセに気づいて修正することができる
③　聞きとりやすい発声・発音を用いて相手に伝わるように話すことができる

【主　催】　教務委員会

【企画・実施】　評価・FD 教育改善専門部会

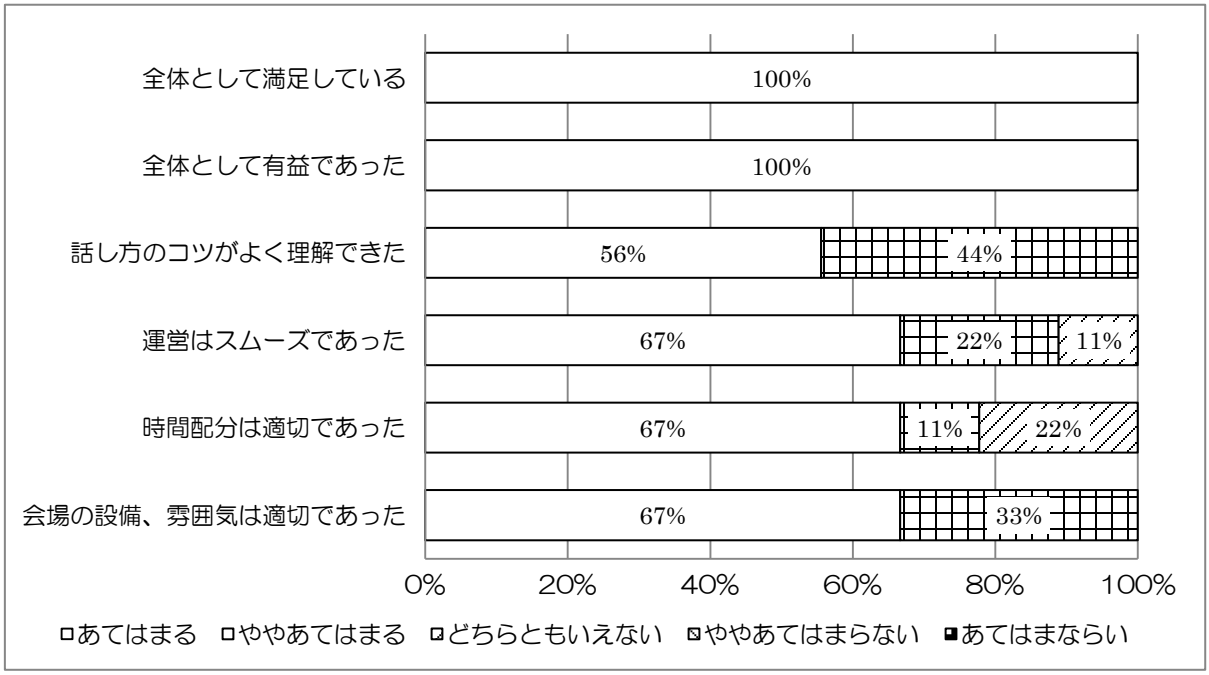
【参加者】

８名（受講証発行対象者：８名）

所　　属	人　　数
教育学部	2
医歯薬学総合研究科（医系）	1
医歯薬学総合研究科（保系）	1
水産・環境科学総合研究科（水産）	1
国際健康開発研究科	1
病院	1
学生支援部	1
計	8

事務職員

【参加者からの評価】（回答者：９名）



○　今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

- 　このような内容の研修は初めてで、よい機会となった。
- シリーズものにして下さい。
- 話し方の問題に関して鋭い指摘をしていただき勉強になりました。

- 意識していないところが多くあり、改めて、話し方について、教えて頂き、勉強になりました。
- 大変有意義だったと思います。もう少し参加者が多くてもよいと思いました。
- わかりやすいレクチャーで、内容も充実していた。可能な限り家や講演前に練習、準備したいと思います。とても勉強になりました。
- 人前で話す機会は、多くないため、話す際の声の大きさ、高さなどを意識することは、少ないため、非常に新鮮であった。
- これから就職活動があるので、とても役立つ講演でした。（学生）

○ 内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたら、ご記入下さい。

- もう少し話し方の実践があってもよかった。
- 案内の際に、もう少しくわしい内容が書かれているとよかった。

○ 今後、ＦＤ・ＳＤのテーマや実施方法などに関して何かご希望がありましたら、ご記入下さい。

- 授業や講演のストーリーの組み立て方、資料の作り方、活かし方についての講演があるとよいと思います。
- 様々な企画をお願いします。
- 参加型のセミナーでとても楽しく学ぶことができたが、参加者同士が関わる研修会でもよいと思う。

【総　括】

授業や研究発表の場面でよく伝わる話し方について、講師の小田切めぐみ氏から、日本語の音声の特徴に基づいて分かりやすく解説、実演していただいた。さらに、研修前の参加者のスピーチをビデオ撮影し、その特徴や弱点の指摘を受けたのち、研修中も適時、発声や発話を求められたことで、自分の話し方の癖に気付かされ、腹式呼吸法、正しい発声法、滑舌、鼻濁音など、伝わりやすい話し方のコツを体感学習できた。

参加者は、開催時期や他の研修との間隔が関係したのか、少なかったものの、教員、職員、学生と多彩で年齢層も幅広く、世代による話し方の違いなど、他の参加者のスピーチに対する指摘も個別指導とともに参考になった。

参加者からは、より詳しい事前案内、参加者同士が関わる実習研修に加え、シリーズ物にしてほしいという要望があった。この研修は今年で７年続いていることから、既受講者のためのフォローアップ研修があっても良いかもしれない。また、研修後の自習のため、自分の話し方の動画とコメントを持ち帰ることができれば、継続的な改善が期待できると思われる。

（文責：神谷　保彦）

第９６回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成 25 年 10 月７日提出）

平成 25 年度ＦＤ・ＳＤサマーワークショップ
③　新任教授へのメッセージ－長崎大学の課題と展望－

【趣　旨】大学を取り巻く環境がますます厳しくなりつつある今日、長崎大学も多くの課題に直面しています。このプログラムでは、新たに教授に昇任された方々や教授として採用された方々とともに、本学の状況と今後の展望を共有し、高等教育機関としての本学の充実の方策について理解を深めます。

【対　象】　平成 23 年度以降に教授に昇任または採用された方

【日　時】　平成２５年９月２日（月）１０:00～１２:３０

【場　所】　文教キャンパス　事務局第５会議室（教育学部２階）

【内　容】

10:00～10:05	開会挨拶（佐久間理事）
10:05～10:35	片峰茂学長（本学を取り巻く社会情勢）
10:35～10:45	質疑応答
10:45～11:05	山﨑裕史理事（財務面の課題）
11:05～11:25	福永博俊理事（人事面の課題）
11:25～11:35	質疑応答
11:35～11:55	佐久間正理事（教育面の課題）
11:55～12:15	調漸理事（研究面の課題）
12:15～12:25	質疑応答
12:25～12:30	閉会挨拶（佐久間理事）

【到達目標】
①　長崎大学を取り巻く社会情勢を理解する
②　長崎大学の財務・人事・教育・研究面の各課題を理解する
③　長崎大学全体の視野から、今後の展望を共有する

【主　催】　教務委員会

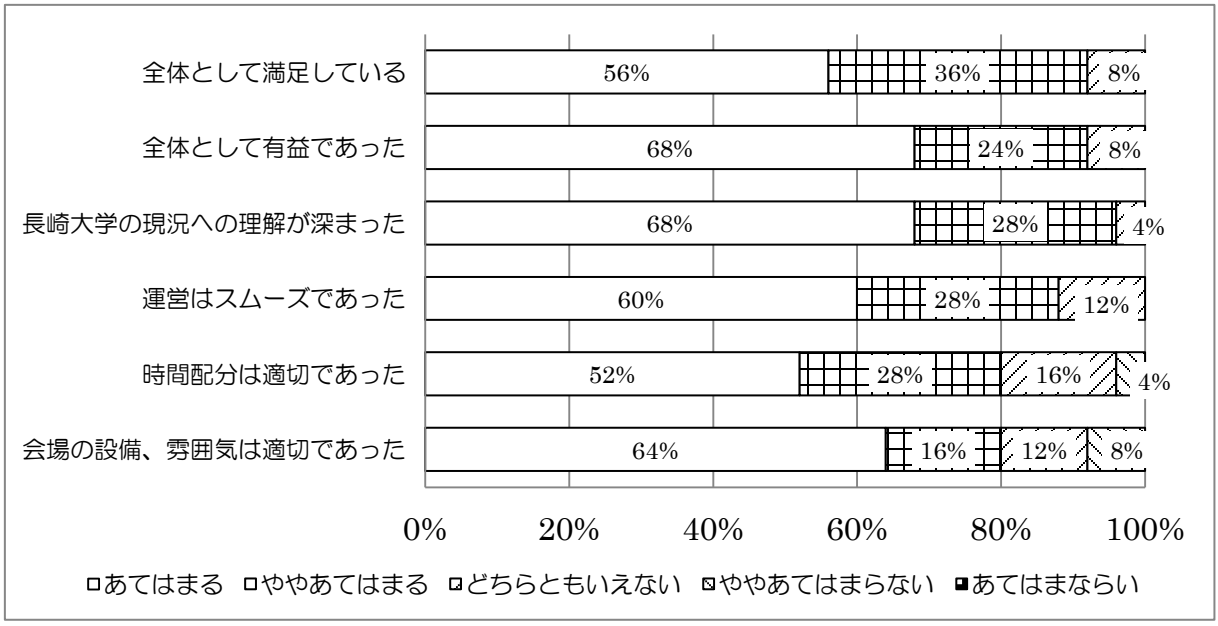
【企画・実施】　評価・FD 教育改善専門部会

【参加者】

３１名（受講証発行対象者：３１名）

所　　属	人　数
教育学部	7
経済学部	2
医歯薬学総合研究科（医系）	4
医歯薬学総合研究科（保系）	1
医歯薬学総合研究科（薬系）	3
水産・環境科学総合研究科（環境）	3
水産・環境科学総合研究科（水産）	3
国際健康開発研究科	1
原爆後障害医療研究所	1
病院	1
大学教育機能開発センター	1
言語教育研究センター	3
研究推進戦略室	1
計	31

【参加者からの評価】（回答者：２５名）



○　今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

- 新任教授だけでなく、広く教員にも伝えていただきたい内容だと考えます。
- 知らないことがたくさんあり、勉強になりました。
- 大学の動き、学長の考え方がよくわかり大変有益であった。
- 大変有益な FD でした。
- これから頑張りたい。
- 執行部のお考えを理解できました。意思決定のプロセスで出てきた問題点も教えていただければなお良かったと思いました。
- 同じ部局内で参加した人と討論したい。具体的な数値を示していただいて参考になった。
- 執行部が話をするということに意義の一端があったかと思いますが、本学の構成にあくまで基づいた FD・SD だったと思います。やはり人文・社会学系への言及が少ないと感じました。
- 佐久間理事の話し方は説教調（興奮）で、もう少し落ち着いて話をしてほしかった。（パワーポイントも使って）
- 教授を呼んで大切な話をするのだから各理事ももう少し時間を使って研究をして臨んで欲しかった。学長の話が秀れていてあとが続いていない。（福永理事がまあまあか。）

○　内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたら、ご記入ください。

- 学長のお話をもっと聞きたかったです。
- 内容的に一般的な話でしかなく、もっと長崎大学に特化した話をしてほしかった。
- 財政面でもう少し詳しく聞きたかった。
- 研究ができるような時間の確保の仕方について考えたい。
- 英文投稿できるような支援（edit システム）。
- 雑用を減らすためのシステム改革。

○　今後、FD・SD のテーマや実施方法などに関して何かご希望がありましたら、ご記入ください。

- これまでの流れとは対照的に、部署ごとの FD・SD を実施してもいいかなと思いました。
- LACS→E-learning にもしてほしい。（学会などで連続して参加できない。）

【総　括】

新たに教授になられた方々は少し緊張気味であったが、熱心に学長先生や理事の先生方の話を聞いておられた。日常では余り耳にすることのない財政の話しもあり、これからの教育・研究の業務の遂行に役立つものであったと思います。

講話を聞くだけでなく、参加者間の議論や執行部との対話も盛り込むことができれば良かったのかも知れない。そのためには、FD の時間を少し長くすることや焦点を絞っての FD にするなどの工夫も必要となる。

参加者の意見は、冷静に書かれており、今後の FD のあり方を考える資料にしようと考えている。

（文責：橋本 健夫）

第９６回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２５年１０月７日提出）

平成 25 年度ＦＤ・ＳＤサマーワークショップ
④　アクティブラーニング事例報告 －モジュールⅡ前期科目より－

【趣　旨】　昨秋からスタートした全学モジュール科目では、アクティブラーニングを積極的に導入する試みがなされています。この事例報告では、二つの分科会でそれぞれ６名の方から今年度前期の授業経験を紹介していただきます。苦労した点・失敗した点も含めて、互いにざっくばらんに実践交流を行うことで、後期授業に向けて工夫を考え合う機会にしていただけたらと願っています。

【対　象】　全教職員

【日　時】　平成２５年９月３日（火）　14:00～17:00

【場　所】　分科会Ａ：教育学部 21 番教室　　分科会Ｂ：教育学部 22 番教室

【講　師】　モジュールⅡ前期科目担当者１２名

◆　分科会Ａの報告者と科目名　◆

安武 亨 教授（医学部）	「スポーツ医学」
吉村 篤利 准教授（歯学部）	「口と疾患」
和田 光弘 准教授（薬学部）	「出島の科学」
勝田 順一 准教授（工学部）	「破壊事故とヒューマンファクタ」
岡田 二郎 教授（環境科学部）	「環境と生物応答」
石橋 郁人 教授（水産学部）	「海洋環境と科学物質」

◆　分科会Ｂの報告者と科目名　◆

柴多 一雄 教授（経済学部）	「地域社会と日本経済」
松村 真樹 准教授（留学生センター）	「世界人口の動向と国際開発」
全 炳徳 教授（教育学部）	「核兵器廃絶と教育」
楠葉 洋子 准教授（医学部保健学科）	「仕事と健康」
川越 明日香 助教（大教センター）	「脳とことば」
山地 弘起 教授（大教センター）	「対人世界の心理学」

【内　容】
①　分科会Ａ（自然科学系）・分科会Ｂ（社会科学系）に分かれての事例報告

②　事例報告を受けての自由な意見交換

【到達目標】
① モジュールⅡ前期科目から、授業経験を共有する
② 後期授業に向けてアクティブラーニングの工夫を考えることができる

【主　催】　教務委員会

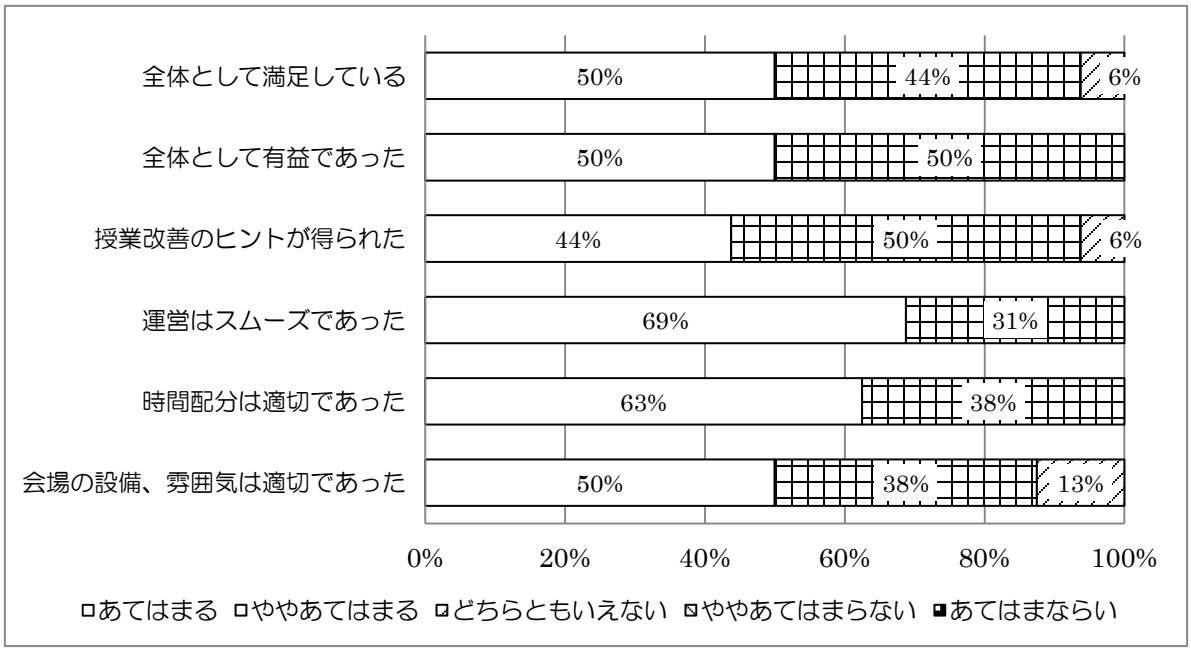
【企画・実施】　評価・FD 教育改善専門部会

【参加者】
２４名（受講証発行対象者：２４名）

所　　属	人　　数
教育学部	1
医学部医学科	1
医歯薬学総合研究科（保系）	3
医歯薬学総合研究科（歯系）	1
医歯薬学総合研究科（薬系）	2
工学研究科	1
水産・環境科学総合研究科（環境）	4
国際健康開発研究科	2
原爆後障害医療研究所	1
情報メディア基盤センター	4
留学生センター	1
言語教育研究センター	1
核兵器廃絶研究センター	1
産学官連携戦略本部	1
計	24

分科会Ａ

【参加者からの評価】（回答者：１６名）



○　今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

- 他の先生方の工夫点がきけて有意義でした。来年度以降とり入れていこうと思います。
- もう少し参加者が欲しい。
- 発表内容は OK ですが、そもそも論として、アクティブラーニングという手法に目が行き過ぎている様に感じた。教養教育の目標として何を挙げるべきかのそもそも論が必要と思われるものもある。一方でアクティブラーニングを効果的に導入されている講義もあり、大変参考になった。
- 教員は教育力についてもっと努力が必要かなと思います。
- アクティブラーニングの工夫については各人で大きな多様性があることが明らかになった。改善には相当な努力が必要であろうと思われる。

○　内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたら、ご記入下さい。
・スクラッチカード・席の固定化・グループの組替・ピアレビュー

【総　括】

モジュールⅡ前期科目の分科会 A において、自然科学系の異なった分野から 6 件の事例報告があり、活発な議論が行われた。

アクティブラーニングの手法や評価法に関しては、班ごとに色分けされた旗、スクラ

ッチカード、実験の挿入、航空機などの実物公開、座席指定、クリッカー、ワークシート、ピアレビュー（MVP の推薦）、筆記試験などの様々な工夫点について紹介があった。また従来型に近い講義・実験における部分的な改善についても報告された。

参加者からは、「他の先生方の工夫点がきけて有意義でした。来年度以降とり入れていこうと思います。」や「アクティブラーニングを効果的に導入されている講義もあり、大変参考になった。」という意見が得られ、到達目標①と②については達成することができたものと思われる。但し、アクティブラーニングの方法や評価法に関する改善については、改善点を積極的に取り入れていくことは重要であるが、モジュール全体が画一化されることがないように、それぞれの科目で特徴のある工夫・改善を行い、科目間の多様性が失われることがないようにしていくことが望ましいと感じた。

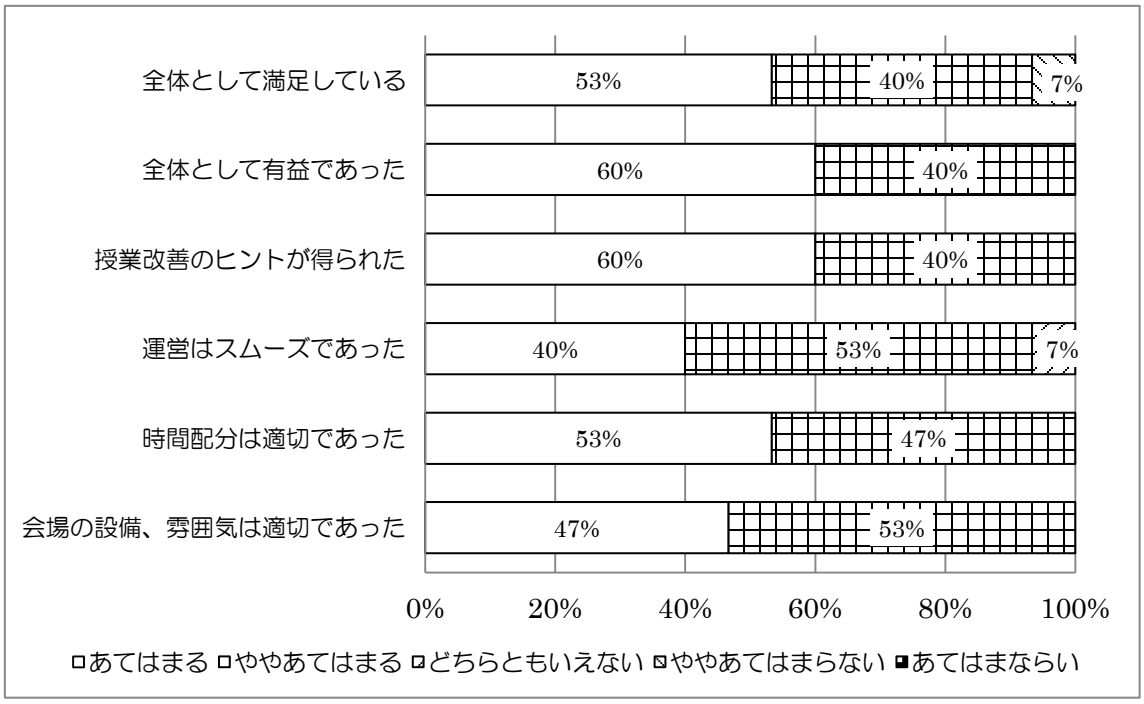
一方の意見では、「アクティブラーニングという手法に目が行き過ぎている様に感じた。教養教育の目標として何を挙げるべきかのそもそも論が必要と思われるものもある。」というものもみられ、アクティブラーニングの手法をブラッシュアップしていくことだけが大きな目標ではなく、教養教育の目標について深い議論が必要であり、学生にも充分に説明が必要であることが再認識された。

参加者からの評価としては、ほとんどの項目において「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計が 90%を越えており、意義のあるＦＤであったと思われる。但し、参加者が少なかったことから、今後は参加者を増やしていくことが大きな課題であり、そのためには参加を促すための方策が必要であろうと考えられる。

（文責：真鍋 義孝）

分科会Ｂ

【参加者からの評価】（回答者：１５名）



○　今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

- 他学部の講義の内容を知ることが出来るよい機会だった。
- 自分自身の講義作成にも参考にできる。
- 先生方の工夫がよくわかり参考になった。
- 事例を聞いて後期の授業にて実践するヒントが得られた。
- 具体的な工夫点を聞くことができ参考となった。ただテーマにより採用できそうなものできそうにないものがあり、やはり自分の中で創造的にやっていく必要も感じた。
- 自分の担当はモジュールＩですが、今回ご紹介いただいた事例を取り組んでいきたいと思います。
- 参加者が少ないのが残念。

○　今後、ＦＤ・ＳＤのテーマや実施方法などに関して何かご希望がありましたら、ご記入ください。

- 様々な実践例は大変貴重で学ぶことが大変多いのですが、もし教育に関する理論面についてご教示いただく機会があるとありがたいです。

【総　括】

本 FD の分科会 B では、モジュールⅡ前期科目の社会科学系のうち、６名の方から授業経験を紹介していただいた。まず６名の先生方には、アクティブラーニングを積極的に導入する試みに関して、苦労した点・失敗した点も含めて講演して頂き、最後に総合討論を行い、後期授業に向けて工夫を考え合う貴重な機会を得ることができた。

受講者のアンケート結果を見てみると、全体として満足しているかの設問に対し、「あてはまる」（５３％）と「ややあてはまる」（４０％）をあわせると、受講者ほぼ全員が満足していたことが確認された。また、全体として有益だったかの設問についても、同様に受講者全員が肯定的な評価を示した。同様に、業務改善へのヒントを得たか、時間配分は適切であったか、および会場の設備、雰囲気は適切であったかの設問に対しても、「あてはまる」と「ややあてはまる」をあわせて受講者全員が肯定評価しており、非常に有意義な FD であったと推察される。

本 FD に関する自由記述からは、「自分自身の講義作成にも参考にできる。」「具体的な工夫点を聞くことができ参考となった。」など、今後の授業に実際に活用できる内容であったことが窺える。一方で、具体的な事例だけでなく、教育に関する理論面の講演の要望があった。さらに、受講者が少なかったことも非常に残念であった。

（文責：西田　孝洋）

第９６回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成 25 年１０月７日提出）

平成 25 年度ＦＤ・ＳＤサマーワークショップ
⑤　モジュール・フォーラムーモジュールⅡ前期科目の総括ー

【趣　旨】　　昨秋スタートしたモジュール方式での新たな教養教育は、今年度前期に最初のモジュールⅡ科目を実施しました。このプログラムでは、モジュールⅡの科目担当者への総括アンケートおよび学生による授業評価の結果をもとに、各モジュールでの工夫点と課題を共有し、今後の改善方向を検討します。

【対　象】　全教職員（おもに全学モジュール関係者が対象）

【日　時】　平成２５年９月４日（火）　１０:00～１２:00

【場　所】　文教キャンパス　教育学部 41 番教室

【講　師】　佐久間 正 理事
山地 弘起 教授（大学教育機能開発センター）
川越 明日香 助教（大学教育機能開発センター）

【内　容】
①　モジュールⅡ前期科目の総括アンケートの結果報告と意見交換
②　学生による授業評価の結果報告と意見交換
③　制度面・実践面での改善方向の検討

【到達目標】
①　モジュールⅡ前期科目から、授業の工夫点と課題を整理する
②　モジュール方式の制度面・実践面での改善方向を提案する

【主　催】　教務委員会

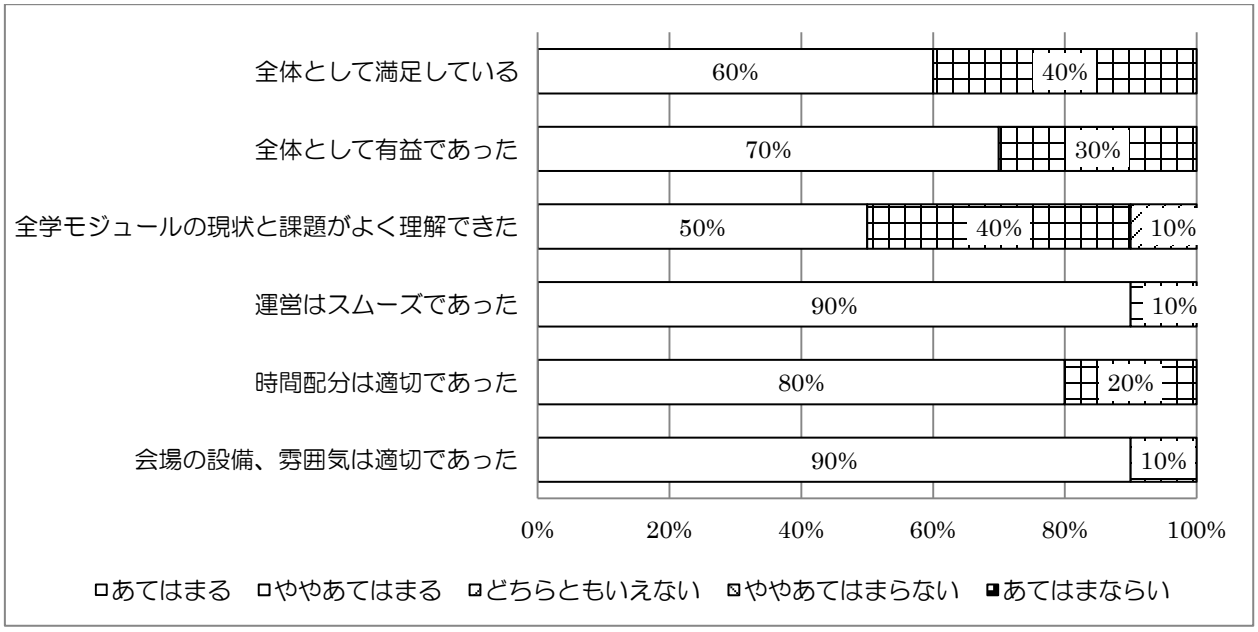
【企画・実施】　評価・FD 教育改善専門部会

【参加者】
１１名（受講証発行対象者：８名）

所　　属	人　　数
教育学部	1

医歯薬学総合研究科（医系）	1
医歯薬学総合研究科（保系）	1
医歯薬学総合研究科（歯系）	1
工学研究科	1
水産・環境科学総合研究科（環境）	2
原爆後障害医療研究所	1
情報メディア基盤センター	2
大学教育機能開発センター	1
計	11

【参加者からの評価】（回答者：１０名）



〇今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

- 学生が教養科目をどうとらえているのかわかった。教養科目は同じくらい重要。
- モジュールⅡについて理解が深まった。受講者数・教員の取り組みによって大きく傾向が異なっていることがわかった。
- アンケートの集計ご苦労様です。指導について様々な分析をしていただければと思います。
- モジュールに関する担当教員の認識、学生の認識を垣間見ることができ勉強になりました。
- モジュールの現況と課題がよく理解できました。またオリエンテーションの重要性が再確認できました。

【総　括】

本年度前期に行われたモジュールⅡ科目の総括報告と共に、課題や今後の改善方向についての討議が行われた。佐久間理事の挨拶に続き、山地教授による総括アンケートの結果報告、川越助教による学生による授業評価の報告がなされ、その後、全体討論となった。アンケート回答数の関係で分析はやや困難とのことであったが、１クラスの学生数と総括結果との関連が興味持たれた。学生の授業評価では４０名以下のクラスで評価が高い傾向にあった。いづれにしてもモジュールⅡはモジュールⅠに比し高い評価結果であった。学生の学習意欲が話題にあがり、学生に教養教育の大切さ、意義を伝えることが重要との意見が多く出された。参加者は若干少なめではあったが、活発な討議がなされた。

（文責：安武　亨）

第９６回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成 25 年１１月１１日提出）

平成 25 年度ＦＤ・ＳＤサマーワークショップ
⑥　ファシリテーション・スキルアップ ー話し合い活性化の基礎ー

【趣　旨】
授業でグループワークを行っても、学生たちが十分集中していなかったり意見交換が深められていなかったりすることがあります。そういう時、どのような働きかけが有効でしょうか？この講座では、本学でアクティブラーニングを積極的に展開しておられる西村宣彦先生より、話し合いを活性化する基礎的技法を紹介していただきます。

【対　象】　全教職員（TA も参加可能）

【日　時】　平成２５年９月 24 日（火）15:00～17:00

【場　所】　文教キャンパス　教育学部 41 番教室

【講　師】　西村 宣彦 教授（経済学部）

【内　容】
①　ファシリテーションの意味と意義の紹介
②　話し合い活性化の基礎の体験学習

【到達目標】
①　話し合いを活性化するための基礎事項を説明できる
②　話し合い活性化の技法を体験的に理解できる

【主　催】　教務委員会

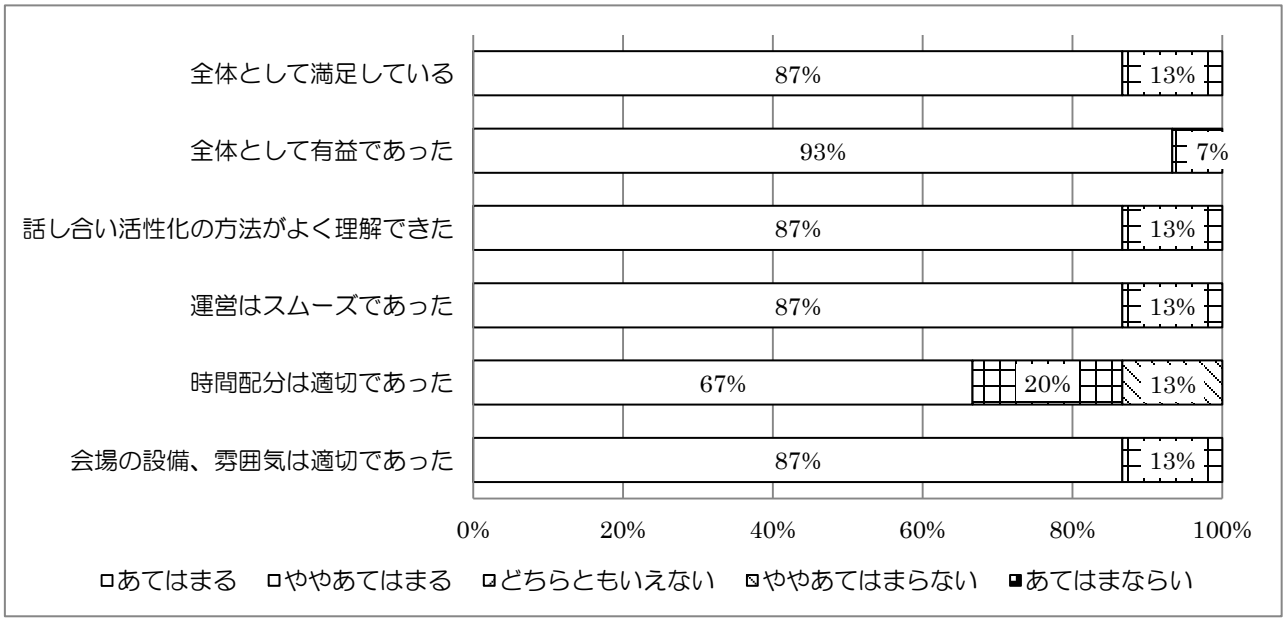
【企画・実施】　評価・FD 教育改善専門部会

【参加者】
１７名（受講証発行対象者：１６名（途中退出者１名除く））

所　　属	人　　数
教育学部	３
経済学部	１
医歯薬学総合研究科（保系）	１

医歯薬学総合研究科（歯系）	1
水産・環境科学総合研究科（環境）	3
国際健康開発研究所	1
原爆後障害医療研究所	1
病院	1
情報メディア基盤センター	1
留学生センター	1
言語教育研究センター	1
核兵器廃絶研究センター	1
産学官連携戦略本部	1
計	17

【参加者からの評価】（回答者：１５名）



○ 今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

- 本学でもこの様な実践があることを知って、良かったです。
- テクニックを教えていただいて助かりました。ぜひ忘れないうちに活用したいと考えています。
- 初めてこのようなファシリテーションに関する講義を受け、大変役に立ちました。
- 勉強になりました。
- 医学部ではまだまだ active learning が不十分なのでとても勉強になりました。

- 来週からの講義に一部でもとり入れたいと思う。
- 参考になった。初対面の患者に対応する時の注意を最近では教育しているようですが、共通事項が多いような気がします。
- 少しワークの時間が短かったようです。でも体験としては特に問題はありません。
- マインドマップとはどういうものでしょうか？

○ 内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたら、ご記入下さい。

- このタイプの FD であれば、あと１時間ほど長くなった方がよいと思った。ワールドカフェが参考になった。
- もう少し時間が長い方がよかった。

【総　括】

参加登録 18 人のうち 13 人が参加し、当日参加者２名、FD は主催者側からの関係者３人（大教センター山地、評価 FD 専門部会より池田、藤本）を加え、18 人で受講した。講師の指示に従い６人、６人、５人の３グループに別れ、それぞれの班のファシリテーター役が講師の指示によって決められた。次に、アイスブレーキングとして、班員の共通点を探し出す議論を行わせ、話しやすい環境作りを行った。アイスブレーキングが極めて重要であることを講師は強調していたが、それを自分たちのグループで実体験することができた。そして、ファシリテーションの意味と意義の紹介がなされた。ファシリテーションとは引き出す力であり、引き出す力とは聞き出すことと書き出すことが基本となるとの解説を受けた。さらに、ファシリテーターは中立な立場でチームのプロセスを管理し、チームワークを引き出し、そのチームの成果が最大になるよう支援することであるとの説明があった。また、聴くこと、話すこと、書くことについての注意点やコツが紹介された。話すこと、聴くことについては、２人一組で片方が話している時に聴く方が無視する態度をとる場合と、聴く方が十分に耳を傾けて相づちを打ちながら聴くことの両方を体験させ、前者が非常に話し手に厳しい環境であることを参加者に実体験させた（昔ながらの大学の講義はこれではないかということも参加者に想起させた）。

次に実践編として、実際に私たちにとって大学とは何かという課題が提示され、それについてグループ討論を行った。グループ討論を通じて聴くこと、書き出すこと、それに基づいてまとめることを実践し、ファシリテーターの役割を理解させ、話し合いの活性化とはどのようなことかを体験させた。

最後にアンケートをとって終了した。参加者の反応はおおむね良好であったと感じた。全体的に時間が不足気味で、特に職員の立場で話し合いの活性化の体験学習をした結果に基づいて討論をする時間がなかったことが残念であったが、全体として有意義な FD であった。

（文責：池田 通）

第９６回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成 25 年１１月１１日提出）

平成 25 年度ＦＤ・ＳＤサマーワークショップ
⑦　学生とともに進める教育改善

【趣　旨】
　本学では、平成 22 年 6 月より「学生による教育改善のための協議会」が活動しています。各部局から 2 名～3 名の学生が推薦され、おもに教養教育と学習環境についての改善案をまとめてきました。このプログラムでは、それをもとに教職員と学生との間で教育改善への相互理解を図り、改善の手立てを明確化することを目指します。教員だけでなく、図書館や学生支援センターなど学生と密に接する部局の職員の方々、また関心ある学生諸君の参加を歓迎します。

【対　象】　全教職員（学生も参加可能）

【日　時】　平成２５年９月 26 日（木）10:00～12:30

【場　所】　文教キャンパス　教育学部 41 番教室

【講　師】　「学生による教育改善のための協議会」メンバー
　　評価・FD 教育改善専門部会委員

【内　容】
①　「学生による教育改善のための協議会」より、教育改善要望の報告
②　参加者との自由な意見交換と改善内容の検討
③　改善提案のまとめ

【到達目標】
①　学生の視点からの教育改善の要望を共有する
②　教職員への要望と学生への要望を相互に理解し、教育改善の内容を検討する
③　教育改善の提案をまとめる

【主　催】　教務委員会

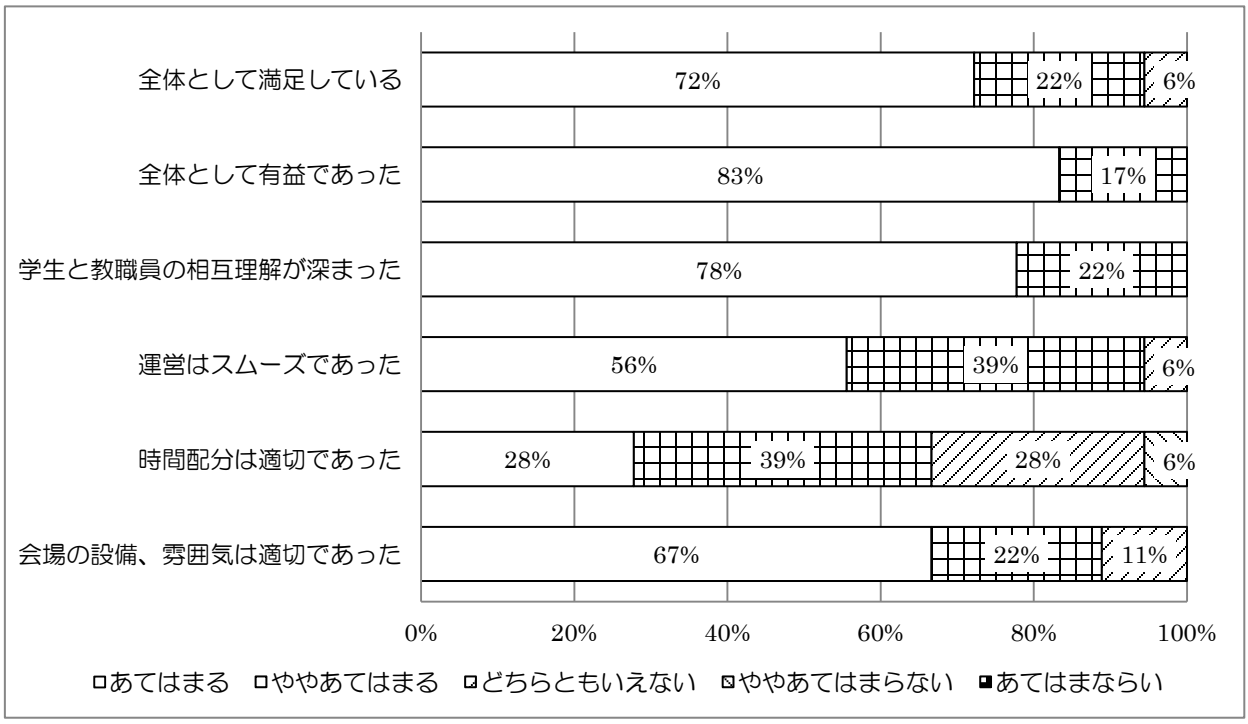
【企画・実施】　評価・FD 教育改善専門部会

【参加者】
１２名（受講証発行対象者：１２名）

所　　属	人　　数
教育学部	1
経済学部	1
医歯薬学総合研究科（医系）	1
医歯薬学総合研究科（保系）	1
工学研究科	2
情報メディア基盤センター	1
言語教育研究センター	3
学生支援部	2
計	12

※事務職員

【参加者からの評価】（回答者：１８名）



○　今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

- 学生の意見を聞けて良かった。その意見を直接学部に伝えて欲しい。（教員）
- 学生がたくさんの課題を出してくれて、参考になった。（教員）
- 学生の本音が聞けて良かった。（教員）

- 良かった。
- もっと学生と教員が話せる場をつくってほしい。（教員）
- もっと学生のモジュールや CALL を使った授業についての具体的な批判を聞いて、改善につなげたかった。（教員）
- もう少し、学生が多く参加してくれると有難いと思いました。しかし、学生は、このFD のためによく頑張ってくれている、協力してくれていると思います。全ての教員に、この会で活動していることを広告する必要がないでしょうか。（教員）
- 学内の疲弊が学生に影響している。教職員が授業だけをしているわけではないというのが学生（特に１、２年生）にわかっていないのでは、高校の教諭の延長のような感じをもっているため意識の差を感じる。
- 学生及び教員の意見が聞けて、とても有意義でした。（事務職員）
- 学生さん達が素直な意見を出してくれて、良かったです。グループワークでも生の声が聴けたと思います。モジュールについても CALL についても大学に入学したばかりの学生の立場に立った説明が必要だと痛感しました。（事務職員）
- 素直な意見を先生方に伝えることができてよかった。（学生）
- 私たち学生間ではモジュール、CALL 等の意見を何度も交換してきましたが、教師がどのように思っているのか、どんなことを行っているのかを聞き、改善点を考えていくことができたのでよかったです。（学生）
- 教職員のみなさんと話す機会はめったにないので、良い機会になりました。（学生）
- 言いたい放題、言わせて頂いて申し訳ありませんでした。（学生）

○ 内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたら、ご記入下さい。

- 休憩をもう少しとって欲しい。（教員）
- 「学生の声」を聞く時、教員の方が話している時間の方が長かった気がした。おとなしい学生は、自分の意見をあまり言えなかったのではないかと思う。（教員）
- 担当するモジュールのことを知りたかった。（教員）
- 学生数をもう少し増やして欲しい。（教員）
- グループディスカッションの時間をもう少し欲しかったです。（事務職員）
- もう少し時間が欲しいです。（学生）

○ 今後、ＦＤ・ＳＤのテーマや実施方法などに関して何かご希望がありましたら、ご記入ください。

- もう一度、このテーマを！
- 他大学でのアクティブラーニングの具体的なとりくみについて（教員）
- 学生との話し合いの場をもっと増やして欲しいです。（事務職員）
- このようなしゃべる機会を今後も活発に行う！（学生）

【総　括】

今回の「学生とともに進める教育改善 FD・SD」は学生協議会メンバー６人、ピア・サポーター１人、教職員１２人が参加し、教養教育に関する活発な意見交換がなされた。特に大学が教養教育改善の中心課題としている英語教育・全学モジュール科目について、直接的で厳しい意見のやり取りや今後に向けての提言もなされ非常に有意義な機会となった。参加者が少ないことは残念であったが、参加した教職員の評価はおおむね好評であった。

今回参加した学生は個人的な意見や身近な学生の意見を中心に教養教育に対する意見を述べていた。今後はそれらの個人的な意見や思いも大切にしつつ、さらに所属学部学生の意見を集約するための調査活動も取り入れて、学生、教職員教員とともに教育改善を進めていくことが重要であろう。　（文責：宮原　春美）